

SDGs169ターゲットアイコン日本版完成!

みんなのでつくった、みんなの目標

2万3千を超える言葉が全国から集結

SDGs169ターゲットアイコン日本版制作プロジェクトでは、昨年、全国の子どもや若者から、SDGs(持続可能な開発目標)の169ターゲットを短い言葉、言い表す日本語コピーを募集しました。そのアイデアをもとに169のターゲットアイコン日本版が完成。3月26日に横浜で発表会が開催され、オンラインで配信されました。

SDGs169ターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

SDGsの169ターゲットには、17ゴールのような短い日本語コピーがない。そこで、一人でも多くの人を動かす「日本語コピー」をみんなで考えよう。昨年6月22日から11月30日の期間で全国の子どもたちや学生を対象に、オリジナルな日本語コピーを募集した。英語で書かれた原文をよく読み、日本語訳を参考にキャッチコピーづくりに取り組むことで、SDGsの「自分ごと化」を狙ったプロジェクト。



2030年に世界がどうあるべきかを示したSDGs17のゴールを、次代の主役となる子どもたちが身近に、自分のこととして考えられるように。全国の学校団体、教育団体、学生を対象にした今回の参加型プロジェクトには、総数2万3382件の応募がありました。

発表会には、選考と監修を担当した慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授の蟹江憲史さん、博報堂DYホールディングスの川廷昌弘さん、博報堂クリエティブディレクター井口雄大さんのほか、朝日新聞SDGs ACTION!編集長の高橋万見子さん、朝日新聞DIALOG編集長の前田育穂さんが登壇。さらに、SDGs推進大使を務めた「ピコ太郎」のプロデューサー、古坂大魔王さんがゲストとして登場しました。特別協賛の住友林業、大和証券グループ、フラグスポートによる出張授業でキャッチコピー

作りに挑戦した、慶應義塾中部部、青山学院中部部、和洋九段女子中学校高等学校の生徒たちも参加し、やや緊張した面持ちでライブ配信に臨みました。

発表会は、「1日だけ開かれるSDGsの学校」を舞台に、見ている人が一緒にSDGsについて学べ

次世代へSDGsをより身近に

前半の「授業」の後は、いよいよ決定したSDGs169ターゲットアイコン日本版の発表。大画面に映し出されると、ステージからどよめきが。169全てのコピーディレクションをした井口さんは「完成したのを見ると、圧倒される。この背景に2万3千を超える応募があったと考えると感慨深いです」と、参加者への感謝とプロジェクトの手応えを語りました。初めて日本版アイコンを見た古坂大魔王さんは、「子どもって自由。素直な発想が一番伝わる言葉になる」と、その出来栄に感心していました。

続いて「特別授業」では、特別協賛社の代表者と出張授業に参加した生徒・先生が登場。住友林業・取締役常務執行役員川田辰巳さん、大和証券グループ本社・取締役兼執行役員副社長田代桂子さん、フラグスポート・社長室室長矢崎理さんとともにステージに立った生徒たち

は、「英語の原文からさまざまな人が理解できる言葉にする作業は難しかったが、多様な視点でものを考える大切さを知った」「製造する企業の責任とともに、長年使えるものを選ぶなど、消費者の責任も考えるようになった」と学びを振り返り、「今まで無意識にゴミを分別していたが、その行動が地球環境に貢献できることがわかりました」と意識の変化を語る生徒もいました。

発表会終盤ではSDGsアクション宣言式典へ移り、参加者が自分の取り組むべき目標を宣言し、カプセルに封入。このカプセルを開ける2030年には、SDGsが達成されていることを願い、未来に向けた自分たちの行動のあり方をあらためて確認していました。最後に蟹江さんは「SDGsといえはグローバル。それを、自分たちの言葉で自分ごと化できた。日本のオリジナルを作ったことは今後続く重要なステップになった」と話しました。

軌跡を描いた動画が映されました。ゲストトークでは、古坂大魔王さんが自ら考えたコピーを公開。コピーディレクションを担当した井口さんと、キャッチコピーの考え方や発想方法について、笑いを交えながらのトークが繰り広げられました。さらに、選考に挑んだ高橋さん、前田さんも加わり、SDGsが子どもたちに浸透していることへの驚きや、意外なアイデアを挙げながら選考過程を振り返りました。

みんなのでつくった、未来へつなげる「日本版」!

SDGs17のゴールアイコンのように、簡潔でわかりやすく、「自分ごと化」しやすいターゲットアイコンが出来上がりました。

古坂大魔王さんも注目!

例: [ターゲット4-1]

わかりやすい日本語コピーに

TARGET 4-1

FREE PRIMARY AND SECONDARY EDUCATION

ターゲット4-1

すべての子どもに、無償で質の高い初等・中等教育を

すべての子どもに、無償で質の高い初等・中等教育を

169ターゲットアイコン日本版一覧はこちらから!

発表会当日のアーカイブ動画も見られます。

<http://t.asahi.com/sdgs169>

169ターゲットの日本語コピーや、プロジェクトの軌跡を収録「SDGs169ターゲットアイコン日本版全集(冊子)」をプレゼントします。応募はこちらから

<https://que.digital.asahi.com/epost/11004081>

私たちは「SDGs169ターゲットアイコン日本版制作プロジェクト」を応援しています

持続可能な森づくりで陸の豊かさを守る

住友林業は明治時代から続く保続林業を基本理念とし、保有・管理する国内外の森林で持続可能な林業経営を行っています。木は伐った後に再植林し育てることのできる再生可能な資源です。成長時に吸収したCO₂を建築物になっても炭素として固定し、地球温暖化の緩和にも役立っています。わたしたちは森づくりで陸の豊かさを生み、木材を利用することで地球環境に優しくサステナブルな社会の構築に貢献します。

木と生きる幸福

住友林業

SDGs債で社会に役立つお金の流れをつくる

SDGsの達成には、世界全体で年間約7兆ドルの資金が必要といわれています。証券会社は事業の中でこの課題に取り組んでいます。「SDGs債」は、調達資金が環境・社会課題解決のために使われる債券。この債券を購入することで、持続可能な社会の実現のために必要となるところへ、必要な資金が届けられます。大和証券グループの出張授業では中学生の皆さんが社会貢献とお金の循環を結びつけることを学び、SDGsを多様な視点から考えるきっかけづくりを行いました。

大和証券グループ
Daiwa Securities Group

生産から廃棄まで、メーカーの責任を考える

マニフレックスは、SDGsという概念がなかった1962年の創業時から、金属製のスプリングやプラスチックを使わない寝具を販売し、人の健康と地球環境に配慮してきました。大気、土壌、水への汚染物質を出さない芯材フォーム「エリオセル®」の使用、コンパクトに丸められ、輸送の際のCO₂排出を抑える真空ロールアップ製法、長期保証など、ゴール12「つくる責任 つかう責任」への具体的な取り組みをSDGs達成のために推進しています。

magniflex
マニフレックス

使用済みハブラシのリサイクルでプラスチックの資源循環に取り組む

ライオンは、人と地球の健康を目指して、「ハブラシ・リサイクルプログラム」を推進しています。ハブラシは使い続けると汚れを落とす効果が低下してしまうため、月に1度の交換を推奨しています。このプログラムは通常は廃棄されてしまう使用済みのハブラシを回収して、植木鉢などのプラスチック製品に生まれ変わらせる取り組みです。これからも「お口の健康」促進と「再資源化」による地球環境への負荷軽減を目指していきます。

今日を愛する。
LION

